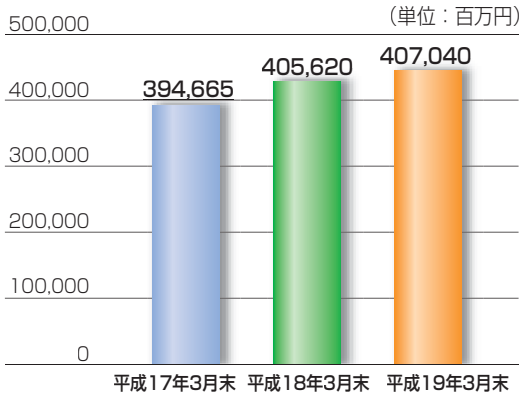
業績ハイライト

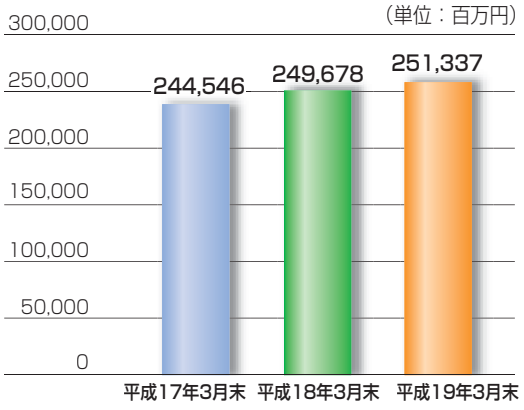
金融自由化の中、金融機関の総合的な競合はますます厳しくなっておりますが、地域のみなさまのご支援により、預金、融資、収益の各部門と地区内シェアで次のような業績を挙げることができました。

業績は堅調に推移しております。

預金・貸出金の状況



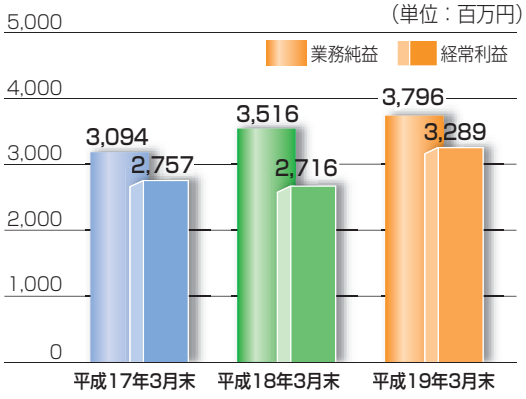
【預金残高の推移】



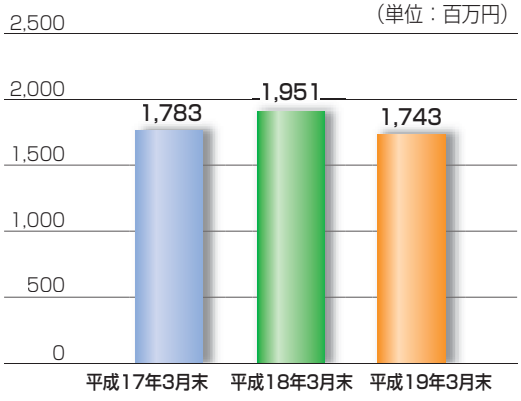
【貸出金残高の推移】

預金の期末残高は個人預金が前年度末比で86億6百万円増加しましたが、法人預金が71億85百万円減少したため、総体では14億20百万円増加し、4,070億40百万円となりました。また、貸出金の期末残高は個人向け貸出金が前年度末比で30億69百万円増加しましたが、事業向けおよびその他貸出金が14億10百万円減少したため、総体では16億58百万円増加し、2,513億37百万円となりました。

損益の状況



【業務純益、経常利益の推移】



【当期純利益の推移】

不良債権の処理を進め資産の健全化をはかったことに加え、新本店建設に伴う経費の大幅な増加が収益圧迫要因となりましたが、有価証券運用収益が前期を大きく上回ったことから、業務純益及び経常利益はいずれも前期を上回りました。なお当期純利益につきましては、課税所得の増加に伴い法人税等が大幅に増加したことにより前期を下回っております。

有価証券の含み益は81億円。

有価証券の状況

【平成19年3月期／保有有価証券の時価情報】

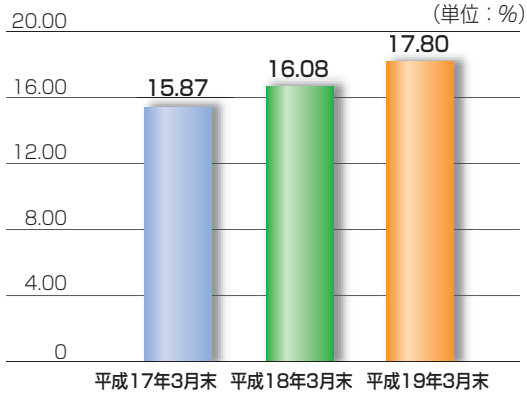
（単位：百万円）

		取得原価	時　価	含み益(評価差額)
保有有価証券	債　券	107,945	108,455	510
	株　式	5,151	8,733	3,581
	投資信託	17,778	21,702	3,923
	その他	599	703	103
合　計		131,475	139,594	8,119

お客さまからお預かりした預金のうち、貸出金に回らない資金は主に有価証券にて運用しております。堅実な資金運用と運用資産の健全化に取り組んだ結果、当期末の有価証券の含み益は81億円にのぼりました。これは、信用金庫業界トップレベルの水準です。

更に強固な体質となりました。

自己資本比率



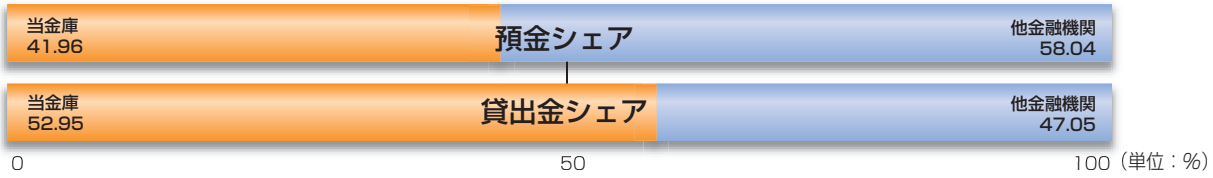
【自己資本比率の推移】

平成19年3月末より新BIS基準を適用し自己資本比率を算出しております。新基準適用に伴うリスク・アセット圧縮効果もあり、分母であるリスク・アセット等は6.50%減少しましたが、分子である自己資本総額は3.46%増加したため、自己資本比率は平成18年3月末の16.08%から1.72ポイント上昇し17.80%となりました。

当金庫の自己資本比率は国内基準の4倍以上となっており、これは過去からの堅実経営により計上してきた利益を、毎年積み上げてきた結果によるものです。

地区内シェアはNo.1です。

地区内シェアの状況



地域のみなさまから厚い信頼をいただき、当金庫の主要営業地区である飯田・下伊那の金融機関（信金、銀行、信組、農協）内における預金残高シェアは41.96%、貸出金残高シェアは52.95%となっております。（農協は2月末、その他の金融機関は3月末の残高による比較）

※他金融機関は、飯田下伊那地区内の銀行、信用組合、農協店舗における預金、貸出金の合計